

特集
「場」を求めて

「家族は何より大切な心よりどころ。だけど、他人のさりげない優しさや温かさに心から救われることもあります。地域にそんな場が増えるといいですね」。

俊子さんは言う。

在宅で看る人、施設で看る人、手品のボランティアをしてくれる人、いつも知らぬ間に湯飲み茶わんを洗ってくれる人、手作りのお菓子や漬物を持ってくる人、それぞれが共感し、いたわり合いながら、ありのままの気持ちを交換している。発足から現在まで、例会の参加者は112人。皆、人との触れ合いを求めてやってくる。

活動は毎月第2水曜日。市の社会福祉協議会三郷支所に集い、お茶を飲みながら、お互いの気持ちをざっくりと語り合っている。口コミで評判が広がり、市外からも参加者が訪れるようになった。

そんな思いから、平成12年4月。知人と2人で介護者同士の触れ合いの場を作った。みんなの気持ちが円くなるようにと、名前は「円」とした。

「介護する人が何でも話すことができ、悩みを打ち明けられる場が必要とされている。それを作るために、私も何か協力したい。」

当時、介護経験を聞くような講座はいくつかあったが、実際に介護している家族がお互いのつらい気持ちを話したり、心のケアをしたりする場は、行政などにはなかった。

「家族に言いにくい悩みを気軽に話せる人を見つけるのは、思いのほか難しい。」

「介護する人が何でも話すことができ、悩みを打ち明けられる場が必要とされている。それを作るために、私も何か協力したい。」

気持ちが円になると、いいね

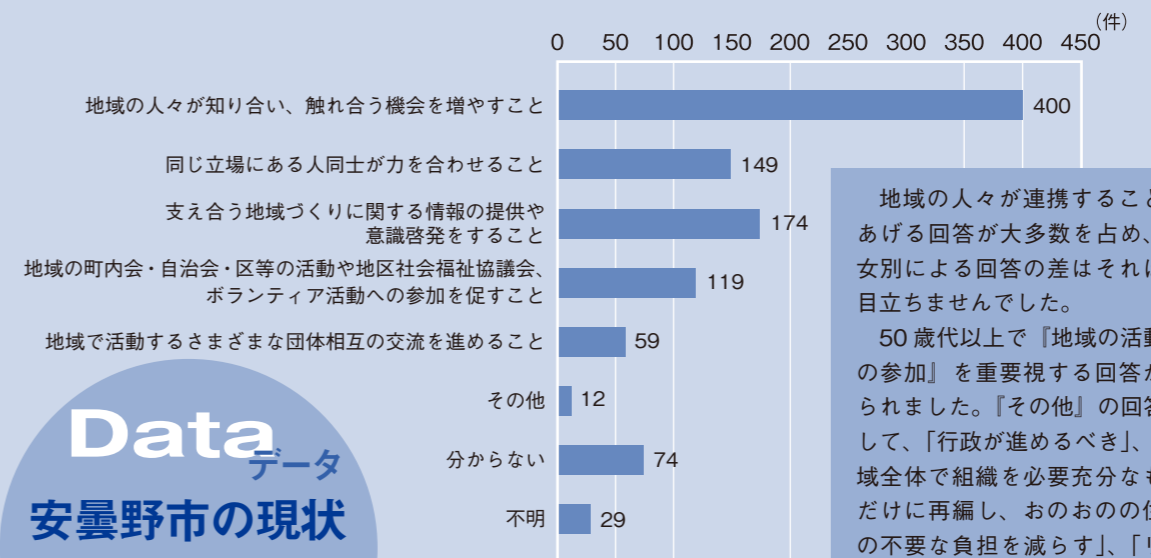
11月中旬に社協三郷支所で開かれたサロン。この日は20人が参加。妻を在宅介護する苦悩を話す男性。母親の施設入所を決め、戸惑いの気持ちを話す女性。介護者の悩み、苦しみは様々ではない。



この日は施設の職員や介護職員も加わり、それぞれの思いを話し合った。右から2番目が俊子さん。



Q. ともに支え合う地域づくりに必要なことは？（複数回答）



地域の人々が連携することをあげる回答が大多数を占め、男女別による回答の差はそれほど目立ちませんでした。

50歳代以上で「地域の活動への参加」を重要視する回答がみられました。「その他」の回答として、「行政が進めるべき」、「地域全体で組織を必要充分なものだけに再編し、おのおのの住民の不要な負担を減らす」、「リーダーを養成する」、「義務として付き合うようにする」、「あいさつ程度の知り合いを増やしておく」などがありました。

Data データ
安曇野市の現状

安曇野いきいき共生プラン（安曇野市地域福祉計画）策定の取り組みの一環で市が平成18年に行った調査より抜粋